

同和工営 正員 ○ 高野 勝也
 広島大学 正員 門田 博知

1. はじめに 最近にはコミュニティ活動が重視され、これに伴ってコミュニティ施設の整備が進められている。整備の各段階において、住民の期待に応えていくことは大変重要なことである。本研究では子供の遊び場を対象として、住民意識とそれを規定する要因を探ることとした。昨年は住民の施設に対するニーズは施設量(面積及び誘致距離の関数)に左右されると仮定して、関心度関数と定義し、住民ニーズと施設量との関係を設定化することを試みた。この際、住民ニーズと規定する要因は、施設量のみならず、地域の環境や個人属性なども考えられるので、地域レベル及び個人レベルでの調査と解析を行ない、これらの要因を明らかにすることとした。

2. 全市、地域、乳幼児の有無別の集計解析
 住民意識調査項目中に、多種の公共施設の中から、ちびっ子広場及び児童公園が不便であるとした人と、そうでない人に分け、これを外的基準として数値化Ⅱ類による解析を行った結果を表-1に示す。施設量は規定力がもっとも大きい。乳幼児の有無のウェイトが地域によって大きく異なっている。住民は地域の環境、安全性、健康性、快適性、利便性等と総合的に判断し、不便な施設と選択している。ケース3の結果もよくこのことを示している。

3. 家庭訪問調査と解析
 家庭訪問調査では、個人属性及び地域環境の要因と、利用欲求度、知識度、需要度との関係と調べることとした。表-2に要因の一覧を示す。

図-2に幼児の有無、施設の質に分けて、需要度と距離ランクとの関係を示した。幼児がいる人の場合、質の良い施設では、距離が遠くなるにつれて、需要度が増加するが、質の悪い場合は距離に関係なく需要度が高い。質的、量的な判断は重要であることがわかる。

表-4の(1)、(2)は需要度について数値化Ⅱ類の解析結果を示している。幼児の有無に拘らず、地区・施設分類の規定力がもっとも高くなっているが、その意味内容は全く異なっている。即ち、幼児がいる場合は、施設の質が悪くなると需要度は大きくなるが、幼児がいらない場合は、地区の安全性、

表-2 家庭訪問調査既得

外的基準	利用欲求度	知識度	需要度
1. いっつもある 2. たむたむがある 3. 時々ある 4. あまりない 5. 全くない	1. 場所を知らない 2. 場所を知っている 3. 知らない	1. 大変不足している 2. やや不足している 3. 十分である 4. 余りがない	
年齢	1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代以上	交通事故	1. 大変不安 2. やや不安 3. 十分安心 4. やや安心 5. 大変安心 6. 余り安心
職業	1. 農林業 2. 漁業 3. 専門的職業 4. 技能・労働職 5. 自由業 6. 主婦	幼稚園 保育園	1. 大変不便 2. やや不便 3. 十分便利 4. やや便利 5. 大変便利 6. 余り便利
居住年数	1. 2年未満 2. 2~5年 3. 5~10年 4. 10~20年 5. 20~30年 6. 30年以上	日照	1. 悪い 2. やや悪い 3. 十分 4. やや良い 5. 良い
性別	1. 2人以下 2. 3人 3. 4人 4. 5人以上	通風	1. 悪い 2. やや悪い 3. 十分 4. やや良い 5. 良い
同居家族	1. いる 2. いない	存在の遊び場	1. 十分ある 2. ややある 3. 十分 4. ややない 5. ない
同居家族	1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生	地区施設	1. 十分 2. やや 3. 十分 4. やや 5. 十分
世界全収入	1. 200万円未満 2. 200~300万円 3. 300~500万円 4. 500万円以上	距離	1. 0~90m 2. 90~180m 3. 180~240m 4. 240~440m
住宅の所有関係	1. 持ち家 2. 民間借家 3. 公営借家・間借 4. 借家・同居		

表-1 要因分析結果

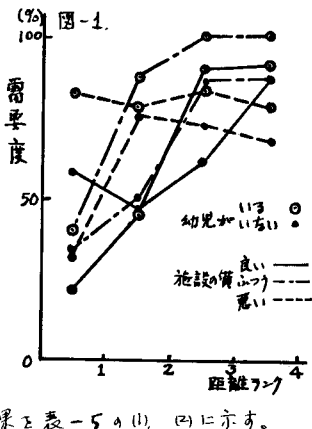
	CASE 1	CASE 2	CASE 3
相 関 比	0.5437	0.6546	0.6141
年 齢	0.033	0.102	0.035
職 業	0.087	0.140	0.127
居住年数	0.042	0.123	0.149
世界全収入	0.019	0.041	0.167
世界全収入	0.042	0.120	0.125
同居家族	0.120	0.074	0.231
同居家族	0.100	0.004	0.168
同居家族	0.006	0.040	0.019
同居家族	0.019	0.009	0.050
同居家族	0.028	0.004	0.038
世界全収入	0.059	0.118	0.092
世界全収入	0.054	0.064	0.111
世界全収入	0.078	0.167	0.138
利便性	0.061		
健康性	0.037		
安全性	0.035		
健康性	0.015		
カバ率			
施設量	0.494	0.597	0.506

(注) 表中の値は偏相関係数(P.C.C)を示す

健康性、快適性の大小が判断基準になっている。また、居住年数についても、幼児の有無によって全く反対の傾向を示している。幼児のいる人の判断基準はがより多様化している。

コミュニティー施設は整備される程度によって充足しているか否かの意識は単純に増減しなすものと考えられる。これは、ある程度整備されると、その施設の効用を認識され、利用欲求が増加する。施設の整備水準以上に利用欲求度が増加すると需要度は整備前よりも整備後の方が高くなることであろう。また需要度が低い場合は、その施設に対する関心が低い場合と、関心があっても十分施設が整備されていない場合との2つがある。このように関心度は住民ニーズの判断には重要な要素である。

関心度を調べるために、施設に対する知識度と利用欲求度の側面を対象として調査・解析と試みた。数量化Ⅱ法



両者とも比較的高い相関比をもち、規定力の高い要因は、幼児の有無、地区・施設分類、居住年数、距離などである。利用欲求度の主な個人属性：世帯収入、世帯人数なども加わって、要因が多様である。施設の質がよく、距離が近いほど知識度も利用欲求度も高い。

4. まとめ 集計及び非集計の解析結果、住民の施設に対する需要度は、その施設に直接かかると、間接にかかるとを区別して考えよ必要がある。また、公園・広場等の施設は、単に施設量だけでなく、施設の質や地区全体の環境が人々の需要度に影響を与える。直接その施設にかかわりをもたない人は環境を重視して需要度を判断するのに対して、直接かかわりがある人は施設そのものを重視している。

将来益が多様化が進むと考へられるが、施設に対する質、種類についての要求も多様化するであろう。その際、直接関係者と間接関係者とに分けて、施設整備の効用を明らかにする必要がある。今後は両者の定みづけについて研究する必要がある。

表4-① 幼児がいる場合

外的基準	需要度	相関比	スピアマン順位
1. 大変不足している		0.6556	0.1843
2. やや不足している			0.0318
3. 十分である			-0.2842
4. たいへん多い			0.3769
要因	カテゴリ	相関係数	スピアマン順位
交通事故	不安	0.311	-0.0094
	安心		0.1800
	安心		-0.2561
年齢	20才以下	0.319	0.0406
	30才		-0.1181
	40才		0.3080
	50才以上		0.1072
居住年数	2年未満	0.418	0.0704
	2~5年		-0.0345
	5~10年		0.0509
	10~20年		0.2205
	20~30年		-0.4610
	30年以上		-0.0318
地区施設分類	大手町地区	0.432	-0.1353
	宇品西地区		-0.1345
	尾長ノ森地区		-0.0631
	瀬川地区		0.1000
	可部地区		0.2804
	沼田地区		-0.0053
距離	0~90m	0.389	-0.1748
	90~180m		-0.0826
	180~290m		0.0747
	290~440m		0.1685

表4-② 幼児がいない場合

外的基準	需要度	相関比	スピアマン順位
1. 大変不足している		0.5540	-0.1028
2. やや不足している			0.1621
要因	カテゴリ	相関係数	スピアマン順位
年齢	20才以下	0.332	-0.2244
	30才		-0.0299
	40才		0.0944
	50才以上		0.1003
居住年数	2年未満	0.275	0.0442
	2~5年		0.1163
	5~10年		-0.0485
	10~20年		0.0076
	20~30年		-0.0243
	30年以上		-0.3200
世帯収入	200万円未満	0.180	-0.0620
	200~300万円		-0.0169
	300~400万円		0.0844
	400万円以上		-0.1145
住宅の所有関係	持家	0.232	-0.0144
	借家		0.1013
	借家		-0.1628
交通事故	不安	0.169	-0.0460
	安心		0.0935
	安心		0.0620
幼稚園保育所	便利	0.125	-0.0271
	便利		-0.0472
	便利		0.0526
日照	よく	0.056	-0.0381
	よく		0.0087
	よく		0.0113
地区施設分類	大手町地区	0.356	0.1927
	宇品西地区		-0.2351
	尾長ノ森地区		-0.0430
	瀬川地区		-0.0068
	可部地区		-0.1131
	沼田地区		0.1427
距離	0~90m	0.300	0.1233
	90~180m		0.0990
	180~290m		-0.0470
	290~440m		-0.1612

児童公園 大手町(西) 尾長ノ森(東) 瀬川(1200m) 可部(沼田) (300m)

表5 知識度の要因分析 (左)

外的基準	知識度	相関比	スピアマン順位
1. 場所を知っている		0.6820	-0.1214
2. たしかに知っている			0.1156
3. 時々知っている			0.3632
4. あまり知らない			0.3632
5. 全く知らない			0.3632
要因	カテゴリ	相関係数	スピアマン順位
居住年数	2年未満	0.222	0.1177
	2~5年		-0.0605
	5~10年		-0.0046
	10~20年		-0.0076
	20年以上		-0.0282
世帯人数	2人以下	0.201	0.0888
	3人		-0.0863
	4人		0.0186
	5人以上		0.0183
幼児	いる	0.405	-0.1407
	いる		0.1073
小中学生	いる	0.226	-0.0921
	いる		0.0446
地区施設分類	大手町地区	0.512	-0.2101
	宇品西地区		-0.0821
	尾長ノ森地区		-0.0612
	瀬川地区		0.0272
	可部地区		0.3888
	沼田地区		0.0338
距離	0~90m	0.465	-0.2125
	90~180m		-0.0346
	180~290m		0.0388
	290~440m		0.1884

表5 知識度の要因分析 (右)

表5-② 利用欲求度の要因分析

外的基準	利用欲求度	相関比	スピアマン順位
1. いつもある		0.6867	-0.2617
2. たしかにある			-0.2108
3. 時々ある			-0.1617
4. あまりない			0.1354
5. 全くない			0.3877
要因	カテゴリ	相関係数	スピアマン順位
居住年数	2年未満	0.248	0.0223
	2~5年		-0.1559
	5~10年		0.0206
	10~20年		0.1521
	20年以上		0.0979
世帯人数	2人以下	0.232	0.1753
	3人		-0.1327
	4人		0.0160
	5人以上		0.0344
乳児	いる	0.139	-0.1131
	いる		0.0290
幼児	いる	0.464	-0.2494
	いる		0.1912
小中学生	いる	0.375	-0.2445
	いる		0.1124
世帯収入	200万円未満	0.286	-0.1961
	200~300万円		-0.0342
	300~400万円		0.1487
	400万円以上		-0.0489
住宅の所有関係	持家	0.148	-0.0352
	借家		0.0749
	借家		-0.0848
交通事故	不安	0.159	-0.0423
	安心		0.0948
	安心		0.0970
幼稚園保育所	便利	0.146	-0.0356
	便利		-0.0334
	便利		-0.0134
	便利		0.1458
地区施設分類	大手町地区	0.254	-0.1212
	宇品西地区		-0.0849
	尾長ノ森地区		-0.0578
	瀬川地区		0.0383
	可部地区		0.1560
	沼田地区		0.1563
距離	0~90m	0.157	-0.0335
	90~180m		-0.0430
	180~290m		-0.0063
	290~440m		0.0975